



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

全国高校生文学賞で大賞を受賞 これからも小説を書きたい



この作品を書くにあたって実際にライブハウスを取材したそうだ。

四限目 散文1 100

高校生

吉田 尚史

薄暗いライブハウスの観客席は、若い笑い声とアンブから流れる大音量の音楽に包まれている。人がシルエットみたいに見える。皆缶ビールを片手に大口を開けて笑っている。奥の方が音楽に合わせて踊っている集団がいる。そこだけ人が沸騰する水みだりに跳ねているのですぐに分かった。いつかテレビで見たライブパーティーのようだ。

今日は夏のイベントとして学生のアーティストばかりのライブが行われた。その打ち上げ会場としてそ

◀「窓」第四十三号より「高校生」の冒頭

第7回富士正晴全国高等学校文芸誌賞で全国高校生文学賞(四国大学学長賞)の大賞に文芸部の吉田尚史君(2-1)の作品「高校生」が選ばれた。また新聞部が第46回全国高校新聞コンクールで大東文化大学学長賞を受賞した。

吉田君の作品「高校生」は

全国高校生文学賞の大賞に選ばれ日本一となった。この賞は本年度からできた賞だそう。吉田君は受賞した感想を「身に余りすぎて怖い。滋賀県では3位にも入らなかったので驚いた。『高校生』はラ

新聞コンクール 大東文化大学学長賞を受賞

1月30日に第46回全国高校新聞コンクールの入賞校が発表され、本校新聞部が大東文化大学学長賞に入賞した。部長の江竜俊喜君(2-5)は入賞時の感想を「入賞校が発表されるまではとても緊張していて、夜も眠れないほどだった。入賞できたことがわかった時は、喜びのあまり泣いてしまいそうだった」と明かした。副部長の米田明日香さん(2-3)は「受賞がわかったときは安心感と喜びで手が震えた。部員みんなで頑張って作ってきたものが評価されてうれしい」と喜びをあらわにした。表彰式は3月6日に東京都で行われる予定だ。

ライブハウスを舞台としてさまざまな出来事が起こる小説で、今まで自分が書いてきた作品とは違いダークな感じなので部員には衝撃作と言われた。書いた当初はこんなので良いのかと思ったが、この作品で審査員の方が何か感じてくれたのならよかったと思う」と話した。

この作品は小説家の村上龍さんの「限りなく透明に近いブルー」という作品がきっかけで書いたそうだ。吉田君は「この作品を読んで共感して、こういうダークなテイストの作品を書きたいなと思ったこ

とがきっかけだ」と打ち明けた。また完成までの苦労を「書いたのは2週間だが構成は2か月くらい考えて書いた。ストーリーの方向性がたくさんあって、5パターンくらいのストーリーが思いついた。授業中に考えたり夜も0時や2時まで考えたりしていたので大変だった」と苦笑した。

吉田君は「小説は書き始めたら夜遅くまで考えたりと生活が乱れていく。自分にとっては詩や短歌を考えるよりも頭を使うので大変だけれど、これからも書くのを続けていきたい」と目標を話した。